

# 子育てチャンネル

おはなしの会ビッピ会員  
向坊 啓子  
KEIKO MUKAIBOU



おはなしの会ビッピの活動に加わって5年になります。その間たくさんの子供たちと出会ってきました。わんぱくな子、泣き虫な子、おっとりした子、どの子もそれぞれに「もかわいく」天使のように見える私ですが、自分の子供の育てる時には、ちゅともやさしい母親ではありませんでした。

保育園に子供を預けてフルタイムで働いていましたので、朝は毎日大忙しでした。長男が3才ぐらいの頃だったと思います。ある朝、息子が一生懸命に何か言っていたのに、「あとにして、あとに!」と冷たく答えたら、「お母さんなんて、大キライだ」と、泣き出してしまったのです。大キライと言われて、私も泣きたくまりました。というは、それまでずっと自分の思い通りにならない子育てに、いらだち悩み自信がなくなっていたからです。母親失格だな...と悲しく思いました。

そんな悩みを持ち続けている時に、ある講演会がありました。子供は未発達なので自分の気持ちを『ことば』で十分に表現することができない。『ことば』はそのものに気を取られるのではなく、『ことば』の奥にある心の声を読みとってあげてください。本当に自分のお母さんのことをキライな子供は一人もいない。大好きなお母さんのことを『キライ!』と言わざるをえなかった子供の気持ちを考えてあげてください、そんなお話でした。私は、

目からウロコが落ちたような気がしました。キライと言われた私は、自分のことばかり考えて、息子の気持ちを考える余裕も無かったのです。息子はきつと『お母さん、もつとぼくのことよく見てよーぼくの話をちゃんと聞いてよー!』と言いたかったのだと気づきました。

それからあとの子育てでは、『ことば』にとらわれず、子供の様子をよく見て、どんな気持ちなのか、本心はどうなのかを考えるように努めました。そうしたら自分もすごく楽になりました。忙しい生活は相変わらずでしたが、子育てを楽しむ余裕ができました。

反抗期や思春期に、子供が腹の立つような口をきくことがよくあります。『ことば』にひっかかってカッとなりがちですが、少し客観的にかまえて、『どうしてそんなこと言うのか?』と言葉の奥にあるものを読みとろうと努力してみてください。その時すぐには、子供の心を理解することができないかもしれませんが、親が親としての自信と責任を持って、落ち着いて向い合うことで、子供の成長する力を手助けすることができると思うのです。

さて絵本についてのお話です。『絵本はいつだって何才まで読んでいいの?』と思ったことはありませんか。小学校に入学すると、『もつ絵本は卒業して、もつと字の多い本にしませんか。』とか言ったことはありませんか。本に興味を持つことは、もちろん大切ですが、絵本は絵本で、いくつになっても読んでいて欲しいと思うのです。

絵本は絵と文字で構成されています。作者の伝えたいことは言葉で直接的には書いてありません。言葉や絵を通して、自分の心で感じて自分で考える、それが絵本です。読者の年齢に関係はありません。いい絵本に出会うと感動したり、教えられたり、癒されたりすることもあります。どうぞ皆さん、絵本は小さい子の読む物』と決め付けしないで、小学生になっても大人になっても堂々と手に取り、楽しんでいただきたいと思います。

今年の8月、東川養護学校のサマースクールに読み聞かせに行ってきました。子供たちの喜ぶ顔を見るのが私たちの励みです。今回はおはなし会育ちの子供たちがペープサート『日天さん月天さん』を手伝ってくれました。このようにお話好きの子供たちが育っていくのを見るのもうれしいことです。私たちの活動はごくささやかなものですが、これからも地域に根付いて続けていきたいと思っています。

## 「もつと」の奥にある心の声を読みとろう

向坊 啓子 むかいぼう けいこ

おはなしの会 ビッピ  
幼児センター・東川養護学校などで、絵本の読み聞かせや紙芝居、ペープサートなどを行なっているグループ。

